

## ▼ゾレア皮下注用 [注]

【重要度】 【一般製剤名】 オマリズマブ（遺伝子組換え）（U） omalizumab（genetical recombination） 【分類】 気管支喘息治療剤（ヒト化抗ヒトIgEモノクローナル抗体製剤）

【単位】 ▼202.5mg/V [調製後は150mg/1.2mL]

【常用量】 血清中総IgE濃度及び体重に基づき1回75～375mgを2週または4週間毎に皮下投与

【用法】 注射用水で溶解し皮下注 [筋注・静注不可]・専用の溶解器が入手できる。

【透析患者への投与方法】 減量の必要なし (1) 【その他の報告】 常用量適用で有用であった症例（上原彰允：第85回大阪透析研究会2015）

【保存期 CKD患者への投与方法】 減量の必要なし (1)

【特徴】 IgEとFcεRIの結合を阻害して炎症細胞の活性化を抑制する気管支喘息治療剤。高用量の吸入ステロイド薬及び複数の喘息治療薬を併用しても症状が安定せず、通年性吸入抗原に対して陽性を示し、体重及び初回投与前血清中総IgE濃度が投与量換算表で定義される基準を満たす場合に追加して選択する。

【主な副作用・毒性】 ショック・アナフィラキシー、注射部位の過敏症、頭痛、倦怠感、関節痛、熱感など

【F】 62～71% (1) 62% (U)

【tmax】 7日 (1) 7～8日 (U)

【代謝】 蛋白分解酵素により分解・消失する (1)

【排泄】 排泄に腎は関与していない (1)

【CL】 全身CL  $7.32 \pm 0.153 \text{ mL/hr}$  でベースのIgE量に依存（Hayashi N, et al: Br J Clin Pharmacol 63:548-61, 2007）CL/F  $242 \pm 45.4 \text{ mL/日}$  (1)

【t1/2】 約3週間でIgGの消失半減期に近似 (1) 26日 (U)

【Vd/F】  $7.25 \pm 1.33 \text{ L/man}$  [70～80mL/kg] で血漿量に近似 (1)  $78 \pm 32 \text{ mL/kg}$  (U)

【MW】 約149,000

【透析性】 除去されない (5) 除去されないと思われる (1)

【O/W係数】

【備考】

【更新日】 20151126

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。